

一般発表 IV

9 明倫短期大学附属歯科診療所における訪問歯科診療同行実習の取り組み

○木口友美, 本間和代, 江川広子, 平澤明美, 渡邊美幸, 小野真奈美, 天池千嘉子, 計良倫子
明倫短期大学 歯科衛生士学科

keywords : 臨地・臨床実習, 訪問歯科診療, 取り組み

はじめに

わが国は超高齢社会となり, 居宅や施設で生活している要介護高齢者が増えてきた。それに伴い訪問歯科診療のニーズも高まっている。そこで, 本学は訪問歯科診療に対応できる歯科衛生士を養成するため, 平成9年より, 本学附属歯科診療所の訪問歯科診療同行実習を開始し, 平成22年からは全員が本実習に参加するようになった。今後さらに実習効果を高めるため, その現状と学生の意識について調査し, 今後の課題を検討した。

対象および方法

対象 : 本学歯科衛生士学科3年女子67人
(平均年齢 : 20.2 ± 1.3 歳)

方法 : 調査は平成25年10月から26年5月までの8ヶ月間の実習について行った。内容は, 訪問歯科診療同行実習の回数・実習先・実習内容・役立ったこと・困ったこと及び感想である。質問紙調査は配紙法で行った。

結果および考察

学生の訪問歯科診療同行実習の回数は5回の者が最も多く16人(24%)で, 次に3回または4回の11人(16%)と続いた。訪問診療日と実習日との関係で実習先に偏りがでたと思われる。また, 居宅に比べ介護保健施設等が多かったのは, 施設からの要望が多く, 契約数が増えたためと考えられる。

実習先は延べ人数で, 介護老人福祉施設(3施設)が74人(31.2%)と最も多く, 各種老人ホーム(6施設), 居宅・高齢者向け住宅, 介護老人保健施設(2施設)と続いた。介護保健施設との契約が多い関係から, 高齢者向け住宅を除く居宅が少ない結果となっている。

実習内容は, 歯科介護が62人(93%), 義歯修理・

調整が61人(91%), 義歯作製が52人(78%), う蝕処置が48人(72%), 歯周治療が47人(70%)の他, クラウン・ブリッジ作製, 外科処置, 歯内療法であった。実習内容として歯科介護が多かったのは, 他のローテーションにおいてその手法を習得していることから, 学生が直ぐに対応できる内容であったと思われる。

実習でわかったこと・役立ったことは, 高齢者とのコミュニケーションの取り方・気配り, 訪問歯科診療の方法・歯科診療補助・事前準備, 歯科介護の大切さなどであった。また, 困ったことは, 歯科診療補助に関することや意思疎通困難者への対応, 事前準備などであった。実習の感想としては, 貴重な体験, 訪問歯科診療の必要性・重要性, 限られた環境での治療の困難さ, 忘れ物厳禁など多くの気付き等が挙げられた。歯科診療所とは異なる環境での診療方法や訪問歯科診療の必要性・重要性を知ることができたと述べていることは, 高齢社会を支える歯科医療従事者を目指す者として, 大きな気付きであり, 実習の成果と考える。

また, 今後の課題として, 事前準備や歯科診療補助に直接関与する回数を増やし, 歯科診療所における実習との違いを学び, 実力をつけていくことが重要であると考えられる。

まとめ

訪問歯科診療同行実習は, 1人あたり平均 5 ± 2.9 回であった。実習内容は, 歯科介護, 義歯修理・調整・作製, う蝕処置, 歯周治療は70%以上の学生が経験していた。訪問歯科診療同行実習は, 訪問歯科診療の必要性・重要性を認識させるのに有効であった。